

Symantec NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

リリース 7.6

Symantec NetBackup™ バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

マニュアルバージョン: 7.6

法的通知と登録商標

Copyright © 2013 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、チェックマークロゴ、Veritas、NetBackup は Symantec Corporation またはその関連会社の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

このシマンテック製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることを示す必要があるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。サードパーティプログラムについて詳しくは、この文書のサードパーティの商標登録の付属資料、またはこのシマンテック製品に含まれる TRIP ReadMe File を参照してください。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。保証の免責: 技術文書は現状有姿のまま提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Rights in Commercial Computer Software or Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

弊社製品に関して、当資料で明示的に禁止、あるいは否定されていない利用形態およびシステム構成などについて、これを包括的かつ暗黙的に保証するものではありません。また、弊社製品が稼動するシステムの整合性や処理性能に関しても、これを暗黙的に保証するものではありません。

これらの保証がない状況で、弊社製品の導入、稼動、展開した結果として直接的、あるいは間接的に発生した損害等についてこれが補償されることはありません。製品の導入、稼動、展開にあたっては、お客様の利用目的に合致することを事前に十分に検証および確認いただく前提で、計画および準備をお願いします。

Symantec Corporation
350 Ellis Street
Mountain View, CA 94043

<http://www.symantec.com>

目次

第 1 章	概要	5
	バックアップ、アーカイブおよびリストアについて	5
	バックアップについて	5
	アーカイブについて	6
	リストアについて	6
	ポリシーについて	6
	バックアップイメージについて	6
	インストールおよび構成について	7
	オンラインヘルプについて	7
第 2 章	開始	9
	UNIX システムの設定について	9
	UNIX ウィンドウマネージャの設定について	9
	共通デスクトップ環境 (CDE) の設定	10
	Motif に対する設定	10
	バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について	11
	UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの 起動	11
	Windows での NetBackup-Java インターフェースの実行	12
	Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェー スの起動	12
	バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン	13
第 3 章	バックアップまたはアーカイブ	17
	ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ	17
第 4 章	リストア	24
	ファイルおよびディレクトリのリストア	24

概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [バックアップ、アーカイブおよびリストアについて](#)
- [インストールおよび構成について](#)
- [オンラインヘルプについて](#)

バックアップ、アーカイブおよびリストアについて

このマニュアルでは、**NetBackup** の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、コンピュータ上の **NetBackup** クライアントソフトウェアのインターフェースです。**NetBackup** では、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブおよびリストアすることができます。

バックアップかリストアが必要なコンピュータをクライアントといいます。データのバックアップと取得を管理するコンピュータをサーバーといいます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、システムで動作するように構成する必要があります。**NetBackup** 管理者がインストール処理の間にそれを行うことができます。

バックアップについて

バックアップでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、元のファイルはソースドライブに残されます。

バックアップ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって **NetBackup** サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれます。

アーカイブについて

アーカイブでは、選択した項目が宛先ドライブにコピーされ、バックアップが正常に行われた後、その項目がソースドライブから削除されます。

アーカイブ操作を開始すると、バックアップ対象のデータは、コンピュータ上のクライアントソフトウェアによって **NetBackup** サーバーに送信されます。その後、データはサーバーからストレージデバイスに書き込まれ、元のファイルはソースドライブから削除されます。

リストアについて

リストアでは、選択した項目がサーバーのバックアップイメージから取得され、コンピュータ上にリストアされます。

リストア操作を開始すると、コンピュータ上のクライアントソフトウェアから **NetBackup** サーバーに対してデータが要求されます。サーバーはクライアントにデータを送信し、このデータを利用してリストアが行われます。バックアップイメージはサーバーに残ります。

ポリシーについて

NetBackup 管理者は、ポリシーを構成します。ポリシーとは、**NetBackup** がクライアントをバックアップするときに従う規則の定義です。

ポリシーには、**NetBackup** クライアントの自動的な無人バックアップのスケジュールを設定できます (サーバー主導バックアップ)。

また、ポリシーには、ファイルのバックアップを手動で実行可能な時間帯を定義できます (ユーザー主導バックアップ)。

たとえば、ユーザー主導のバックアップを実行可能な時間範囲 (ユーザー処理時間帯) が午前 8 時から午後 6 時であるとしします。これ以外の時間帯には、ユーザーはバックアップまたはアーカイブを実行できません (ファイルのリストアはいつでも実行できます)。

バックアップイメージについて

1 つのジョブによってバックアップされたすべての項目は、バックアップイメージに格納されます。ファイルのリストアを行う場合、1 つまたは複数のバックアップイメージからリストア対象の項目を選択します。

(**NetBackup** 管理者が構成する) 一定の期間が経過すると、バックアップイメージの期限が切れる場合があります。期限が切れたバックアップイメージのファイルは、参照またはリストアできません。

インストールおよび構成について

通常、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールおよび構成するのは、**NetBackup** 管理者です。インストールと構成には次が含まれます。

- コンピュータ環境内のバックアップ対象となるコンピュータ上に、**NetBackup** クライアントソフトウェアおよびバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースをインストールして構成します。
- コンピュータ環境内で **NetBackup** サーバーと連携して動作するようにクライアントソフトウェアを構成します。

NetBackup 環境でユーザー主導の操作が許可されている場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを構成する必要はありません。

構成への変更が必要な場合は、**NetBackup** 管理者に連絡してください。

オンラインヘルプについて

このマニュアルでは、バックアップ、アーカイブおよびリストアタスクの基本的な手順について説明します。詳細情報はヘルプで利用可能です。

[ヘルプ (Help)]メニューからオンラインヘルプを開くか、またはダイアログボックスの[ヘルプ (Help)]アイコンをクリックします。

次の表に、ヘルプで利用可能な情報の一部を示します。

- | | |
|-------------------|---|
| バックアップとアーカイブのトピック | <ul style="list-style-type: none">■ バックアップとアーカイブの形式■ ユーザー主導バックアップ■ サーバー主導バックアップ■ 完全バックアップ■ 累積増分バックアップ■ 差分増分バックアップ■ True Image Backup |
| リストアのトピック | <ul style="list-style-type: none">■ リストアの宛先■ リストアオプション■ 特定の日付からのリストア■ True Image Backup のリストア■ VERITAS Backup Exec バックアップのリストア■ 代替クライアントへのリダイレクトリストア (管理者のみ) |

その他のトピック

- リストアを行う項目の検索手順
- 他のバックアップサーバーを指定する手順 (ご使用の環境で許可されている場合)
- ウィンドウ、メニューおよびダイアログボックスのインターフェースの参照項目

開始

この章では以下の項目について説明しています。

- [UNIX システムの設定について](#)
- [バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について](#)
- [バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン](#)

UNIX システムの設定について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使い始める前に、UNIX 環境が正しく設定されていることを確認してください。

UNIX、Linux および Macintosh OS X システムの場合、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、Java ベースのグラフィカルユーザーインターフェースです。

以降の項で、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に UNIX 環境を設定する方法について説明します。

p.9 の「[UNIX ウィンドウマネージャの設定について](#)」を参照してください。

p.10 の「[共通デスクトップ環境 \(CDE\) の設定](#)」を参照してください。

p.10 の「[Motif に対する設定](#)」を参照してください。

UNIX ウィンドウマネージャの設定について

ウィンドウ内をクリックすることでウィンドウがアクティブになるようにウィンドウマネージャを設定します。

自動フォーカスは有効にしないでください。自動フォーカスを有効にした場合、マウスのポインタをウィンドウ上に移動すると、そのウィンドウがアクティブになります。

NetBackup-Java インターフェースは、自動フォーカスを有効にしていると適切に実行されません。

UNIX の他のインターフェース

NetBackup は UNIX システムに追加インターフェースを提供します。

次のインターフェースを使用してユーザー主導の操作を実行できます。ただし、ユーザー主導の操作にはバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用をお勧めします。

メニューユーザーインターフェース (MUI) このインターフェースは、クライアントシステムに接続可能な端末で使用できます。メニューインターフェースプログラムは、bp コマンドによって起動します。

MUI を使う方法についてはインターフェースの bp のマニュアルページとヘルプを参照してください。

コマンドラインインターフェース (CLI) コマンドを使用すると、シェルプロンプトでバックアップ、アーカイブおよびリストア操作を実行できます。

コマンド情報は、次を参照してください。『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』。

共通デスクトップ環境 (CDE) の設定

NetBackup Java アプリケーションには、CDE ウィンドウマネージャが推奨されています。

CDE ウィンドウマネージャを設定するには次の手順を使用します。

CDE をバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェース用に構成する方法

- 1 CDE ウィンドウのフロントパネルで、[スタイル・マネージャ]アイコンをクリックします。
- 2 スタイルマネージャのツールバーで、[ウィンドウ]アイコンをクリックします。
- 3 [スタイル・マネージャ - ウィンドウ]ダイアログボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに]をクリックします。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 ワークスペースマネージャを再起動するかどうかの確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

Motif に対する設定

Motif ウィンドウマネージャを使用するには、次の手順に従います。

Motif に対して設定する方法

- ◆ X リソースの `Mwm*keyboardFocusPolicy` を次のように設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```

バックアップ、アーカイブおよびリストアの起動について

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースは、次の方法で起動して実行できます。

UNIX NetBackup クライアントの場合	p.11 の「 UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 」を参照してください。
Windows コンピュータの UNIX NetBackup クライアントの場合	p.12 の「 Windows での NetBackup-Java インターフェースの実行 」を参照してください。
Windows NetBackup クライアントの場合	p.12 の「 Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動 」を参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースおよびその使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

UNIX でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを使用して、ユーザーアカウントが存在する UNIX システム上で NetBackup クライアントにログインできます。バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースからは、そのクライアント上でのバックアップ、アーカイブおよびリストアを実行できます。

メモ: jbpSA コマンドのオプションについては、jbpSA のマニュアルページを参照してください。

UNIX でバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

- 1 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行するコンピュータにログインします。
- 2 バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jbpSA &
```

- 3 [ログイン (Login)] ダイアログボックスで、バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。

そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。

- 4 ユーザー名を入力します。

- 5 パスワードを入力します。
- 6 [ログイン (Login)]をクリックします。

Windows での NetBackup-Java インターフェースの実行

Microsoft Windows システムに Java ベースの Windows 管理コンソールがインストールされている場合、そのシステム上で Java ベースのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを実行できます。このインターフェースを使用すると、NetBackup UNIX または Linux クライアントにログインして、そのクライアント上でのユーザー主導の操作を実行できます。

Java ベースの Windows 管理コンソールは、UNIX または Linux システムにログオンする場合に使用する必要があります。Windows システムにログオンする場合に使用することはできません。

Java ベースの Windows 管理コンソールを起動する方法

- 1 [スタート]>[プログラム]>[Symantec NetBackup]>[NetBackup - Java Version 7.0]をクリックします。
- 2 バックアップ、アーカイブまたはリストアを実行する UNIX クライアントの名前を入力します。
そのクライアントに対して有効なユーザーアカウントおよびアクセス権が必要です。
- 3 ユーザー名およびパスワードを入力します。
- 4 [ログイン (Login)]をクリックします。

Windows でのバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの起動

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動するには次の手順を使用します。

Windows システムでバックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを起動する方法

- 1 [スタート]>[プログラム]>[Symantec NetBackup]>[Backup, Archive, and Restore]をクリックします。
- 2 NetBackup のアクセス管理を使用して NetBackup 環境へのアクセスを制御している場合は、ユーザー名、パスワードおよびドメイン情報の入力が必要となる場合があります。

バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

表 2-1 に、Microsoft Windows のデスクトップに表示される NetBackup アイコンを示します。

表 2-1 Windows デスクトップのバックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

アイコン	説明
	バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを表します。Windows の [スタート] メニューおよび Windows エクスプローラに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行されていても、バックアップまたはリストアが行われていないことを示します。システムトレイに表示されます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレイに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてリストア操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理が行われていることを示します。システムトレイに表示されます。黄色い矢印が点滅している場合、NetBackup Client Job Tracker を開いてバックアップ操作の状況を確認することができます。
	NetBackup Client Job Tracker が実行され、1 つ以上のバックアップ処理および 1 つ以上のリストア処理が行われていることを示します。システムトレイに、黄色い矢印が点滅している状態で表示されます。

表 2-2 に、Windows で表示されるツールバーのアイコンを示します。

表 2-2 Windows のバックアップ、アーカイブおよびリストアのツールバーアイコン

アイコン	説明
	[バックアップ (Backup)] ウィンドウを開き、バックアップする項目にマーク付けできます。
	[リストア (Restore)] ウィンドウを開き、リストアする項目にマーク付けできます。
	[状態の表示 (View Status)] ダイアログボックスを開き、ユーザー操作の進捗を監視できます。

アイコン	説明
	[リストア (Restore)]ウィンドウの[NetBackup の履歴 (NetBackup History)]ペインのバックアップイメージを更新します。この機能は、[リストア (Restore)]ウィンドウが表示され、アクティブである場合だけ使用できます。
	[トラブルシュータ (Troubleshooter)]を開きます。
	バックアップ、アーカイブおよびリストアのヘルプを開きます。

表 2-3では、インターフェース全体で表示されるアイコンについて説明します。

表 2-3 バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン

アイコン	説明
	バックアップ、アーカイブおよびリストアアイコン。
	バックアップアイコン。
	リストアアイコン。
	Windows でフロッピーディスクドライブを表します。
	Windows で CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを表します。
	Windows でネットワークドライブを表します。
	Windows でクライアント PC を表します。
	閉じたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	開いたディレクトリ (フォルダ) を表します。他の項目が含まれている場合と含まれていない場合があります。
	バックアップまたはリストアの対象として、すべての内容がマーク付けされているファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として、内容の一部がマーク付けされているディレクトリ (フォルダ) を表します。

アイコン	説明
	バックアップまたはリストアの対象としてマーク付けされていないファイルまたはディレクトリ (フォルダ) を表します。
	バックアップまたはリストアの対象としてすべての内容がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	バックアップまたはリストアの対象として内容の一部がマーク付けされていても、それ自体はマーク付けができない項目を表します。
	それ自体はバックアップまたはリストアの対象としてマーク付けできないが、バックアップまたはリストアの対象としてマーク付け可能な項目を含む項目を表します。
	内容の一部がバックアップされたディレクトリ (フォルダ) を表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で Java クラスファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でプログラムファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で HTML ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で UNIX リンクを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で読み取り専用ファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI でテキストファイルを表します。
	ファイルを表します。Microsoft Windows では、他のアイコンを使用して、さまざまなファイル形式を表す場合があります。
	UNIX と Linux の Java GUI でビットマップ、GIF またはアイコンファイルを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で実行中のバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で正常なバックアップまたはリストアを表します。
	UNIX と Linux の Java GUI で失敗したバックアップまたはリストアを表します。

アイコン	説明
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows のシステムサービスを表します。
	Windows で Windows のシステム状態を表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーユーザーデータを表します。
	Windows で複数の Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーライターを表します。
	Windows で Windows ボリュームシャドウコピーコンテナを表します。
	Windows で 1 つの Windows ボリュームシャドウコピーコンポーネントを表します。
	Windows で Windows レジストリ全体を表します。 レジストリは、HKEY_LOCAL_MACHINE および HKEY_USERS の 2 つの基本キーに対して表示されます。
	Windows でレジストリキーを表します。
	Windows で Windows のブートファイルを表します。
	Windows で Windows COM データベースを表します。
	Windows でネットワーク全体を表します。
	Windows で特定のネットワークを表します。
	Windows でネットワーク内のドメインを表します。

バックアップまたはアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ](#)

ファイルおよびディレクトリのバックアップまたはアーカイブ

バックアップでは、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。元のファイルはソースドライブに残ります。

アーカイブの場合も、項目は別のドライブまたはストレージデバイスにコピーされます。バックアップが正常終了すると、元のファイルはソースドライブから削除されます。

次の項目をバックアップまたはアーカイブすることができます。

- UNIX および Linux
 - ファイル
 - ディレクトリ
 - パーティション

- Windows
- ファイル
 - フォルダ
 - ボリューム
 - レジストリキー
 - システム状態コンポーネント
 - システムサービスコンポーネント
 - EFI システムパーティション (IA64 システムのみ)
 - シャドウコピーコンポーネント

メモ: IA64 システムでは、シャドウコピーのバックアップにシステム状態コンポーネントと EFI システムパーティションが自動的に含まれます。システム状態コンポーネントのみをバックアップする場合には、正常にバックアップするために EFI システムパーティションも選択する必要があります。

次の手順を使用すると、ユーザー主導の (手動の) バックアップまたはアーカイブ操作を実行することができます。

バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースの使用方法について詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

バックアップ、アーカイブおよびリストアを使用してバックアップまたはアーカイブする方法

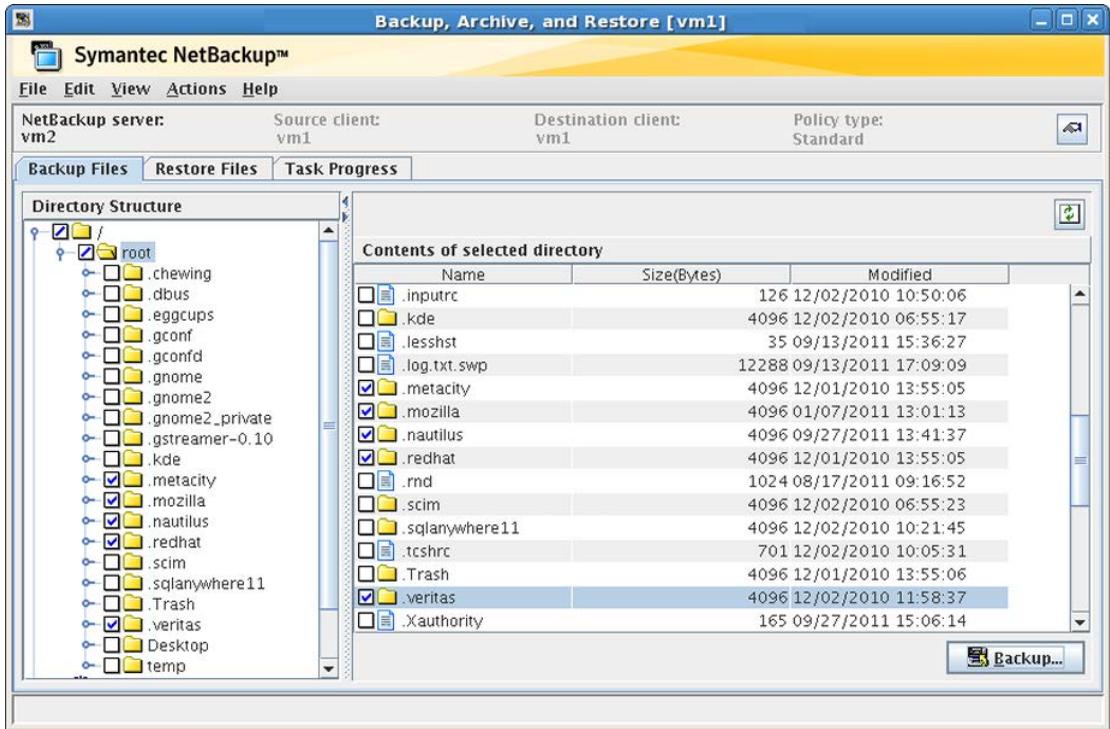
- 1 該当するプラットフォームに対して、次のとおりバックアップを開始します。

UNIX および Linux [バックアップ (Backup Files)] タブをクリックします。

メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント
- ポリシー形式 (Policy type)

次に、[バックアップ (Backup Files)] タブの例を示します。



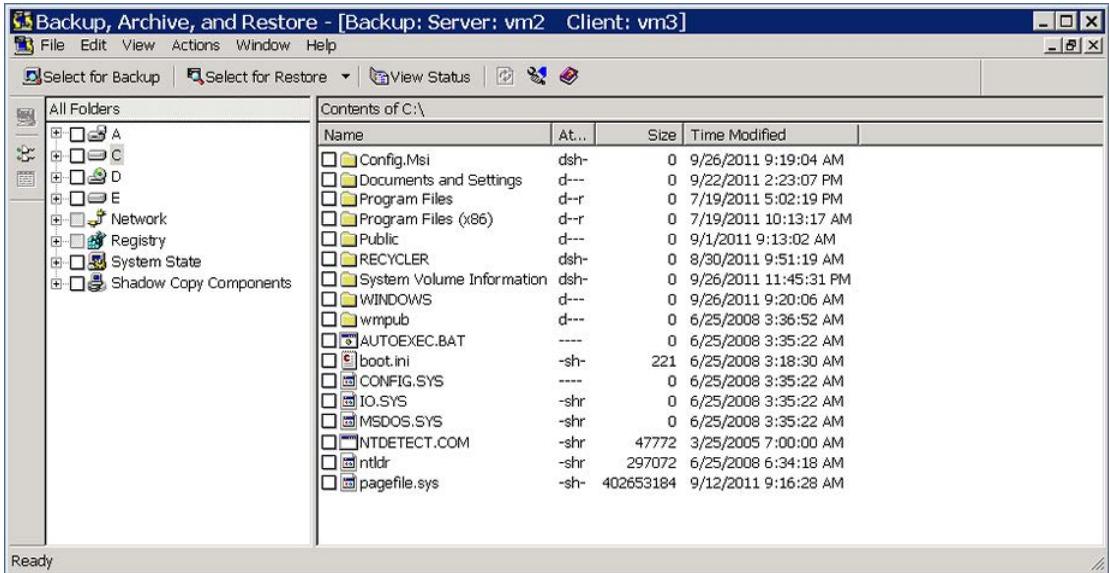
Windows

[バックアップ (Backup)] ウィンドウを開くには、[ファイル (File)] > [バックアップするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Backup)] をクリックするか、または [バックアップの選択 (Select for Backup)] アイコンをクリックします。

ウィンドウのタイトルバーには、NetBackup が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー (Server)
- クライアント (Client)

次に、バックアップ処理時間帯の例を示します。



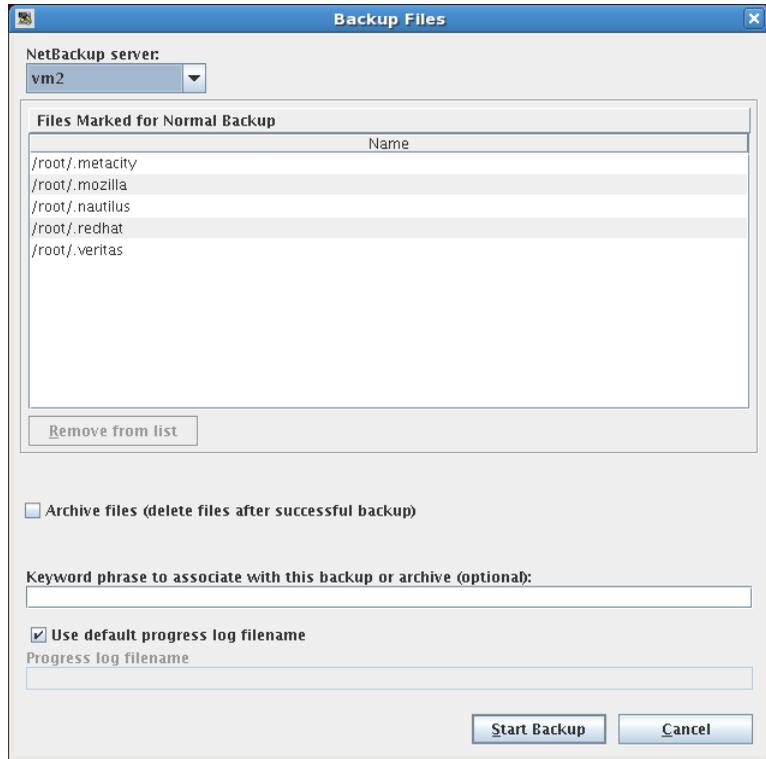
- 2 バックアップする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ(フォルダ)の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

3 選択した項目のバックアップ方法を設定するには、次を実行します。

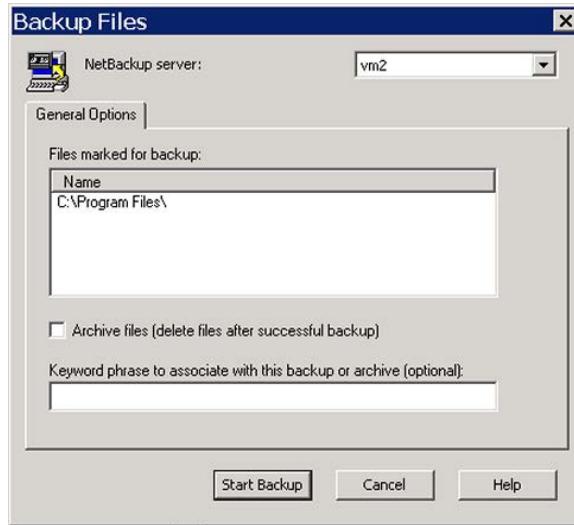
UNIX および Linux [バックアップ (Backup)] ボタンをクリックします。

次に、[バックアップ (Backup Files)] ダイアログボックスの例を示します。



Windows [処理 (Actions)]>[バックアップ (Backup)] をクリックします。

次に、[バックアップ (Backup Files)] ダイアログボックスの例を示します。



4 [バックアップ (Backup Files)]ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択または指定します。

NetBackup サーバー
 (NetBackup server)

ドロップダウンメニューから別のサーバーを選択して、バックアップ操作が実行される NetBackup サーバーを変更できます。

通常、別のマスターサーバーを指定する必要はありません。ただし、複数のマスターサーバーにバックアップを送信できる場合は、正しいマスターサーバーを指定していることを確認してください。

リストからの削除 (Remove from list)(UNIX のみ)

[通常バックアップ用にマークされたファイル (Files Marked for Normal Backup)] リストには、バックアップのためにマークを付けたすべての項目が表示されます。削除する項目がある場合、その項目をクリックした後、このオプションをクリックします。

ファイルをアーカイブする (バックアップが正常に終了した後でファイルを削除する)(Archive files (delete files after successful backup))

バックアップが正常に行われた後で、ソースドライブから自動的に項目を削除します。

このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワード句(オプション)(**Keyword phrase to associate with this backup or archive (optional)**)

バックアップにキーワード句を関連付けるには、その情報をここに入力します。後でこれらのファイルのリストアを行う場合、バックアップされた項目をこのキーワード句で検索できます。

デフォルトの進捗ログファイル名を使用する (**Use default progress log filename**) (UNIXのみ)

デフォルトでは、進捗ログメッセージはUNIXクライアントの次の場所に書き込まれます。
`/usr/opensv/netbackup/logs/user_ops/loginID/logs`

このバックアップの進捗ログファイルの場所と名前を変更するには、次の操作を実行します。

- このチェックボックスをクリックして、チェックマークを削除します。
- [進捗ログファイル名 (Progress log filename)]フィールドに、新しいパスとファイル名を入力します。

5 [バックアップの開始 (**Start Backup**)]をクリックします。

6 バックアップの進捗状況を表示するには、次を実行します。

Windows システムの場合: 表示される[状態の表示 (**View Status**)]ダイアログボックスで、[はい (**Yes**)]をクリックします。

UNIX システムの場合: 表示される[タスクの進捗 (**Task Progress**)]タブで、[はい (**Yes**)]をクリックします。

バックアップは完了するまで数分間かかります。バックアップ操作を開始した後、バックアップ、アーカイブおよびリストインターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。操作は、バックグラウンドで継続されます。

リストア

この章では以下の項目について説明しています。

- [ファイルおよびディレクトリのリストア](#)

ファイルおよびディレクトリのリストア

このトピックでは、バックアップしたものをリストアする方法を以下に説明します。

- 通常バックアップまたはアーカイブバックアップから。
- アレイベースのスナップショットからの個々の項目。

通常バックアップまたはアーカイブバックアップの手順には、次のタスクが含まれています。

- リストアを行う項目を検索します。
- 項目をリストアする宛先を選択します。
- 適切なリストアオプションを選択します。
- リストアのジョブ優先度を変更します (任意)。
- 進捗ログファイルの名前と場所を変更します (任意: UNIX のみ)。

他のリストア形式については、オンラインヘルプを参照してください。

ファイルとフォルダをリストアする方法

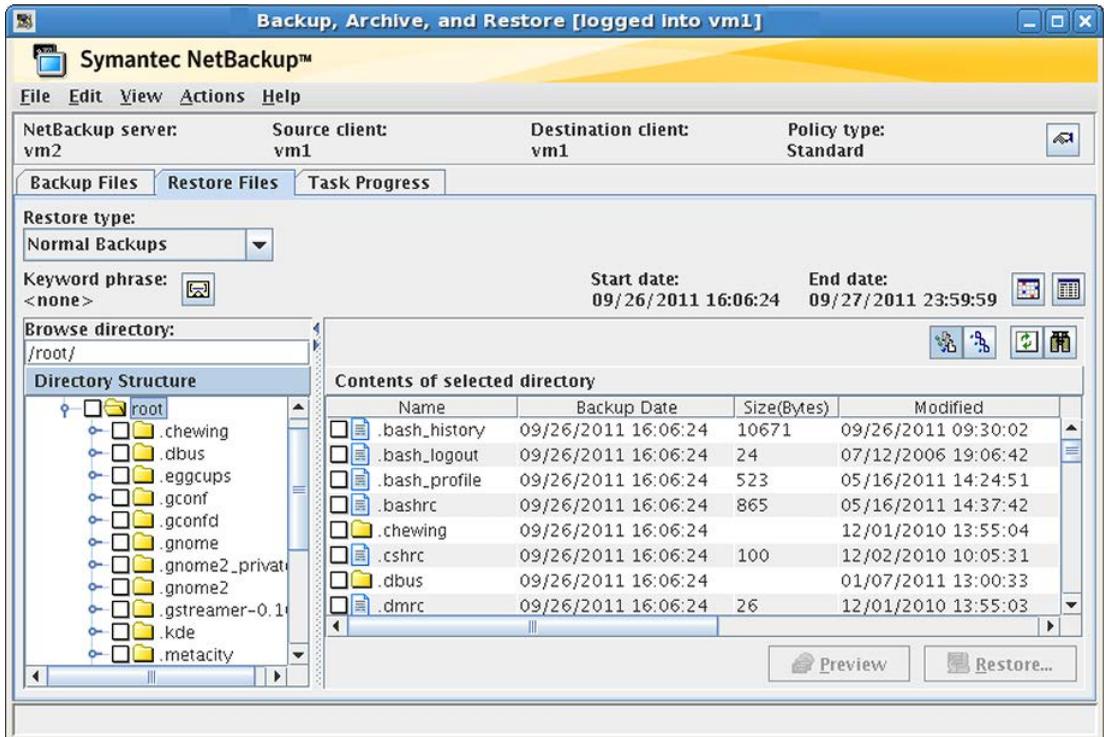
- 1 次のようにリストアを開始します。

UNIX および Linux ■ [リストア (Restore Files)]タブをクリックします。

メニューバーの下の領域には、NetBackup が現在どのように操作に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- NetBackup サーバー
- ソースクライアント
- 宛先
- ポリシー形式
- [リストア形式 (Restore type)]ド롭ダウンリストで、[通常バックアップ (Normal Backups)](デフォルト)または[アーカイブバックアップ (Archived Backups)]のいずれかを選択します。
- [表示 (View)]>[更新 (Refresh)]をクリックします。

次に、[リストア (Restore Files)]タブの例を示します。



Windows

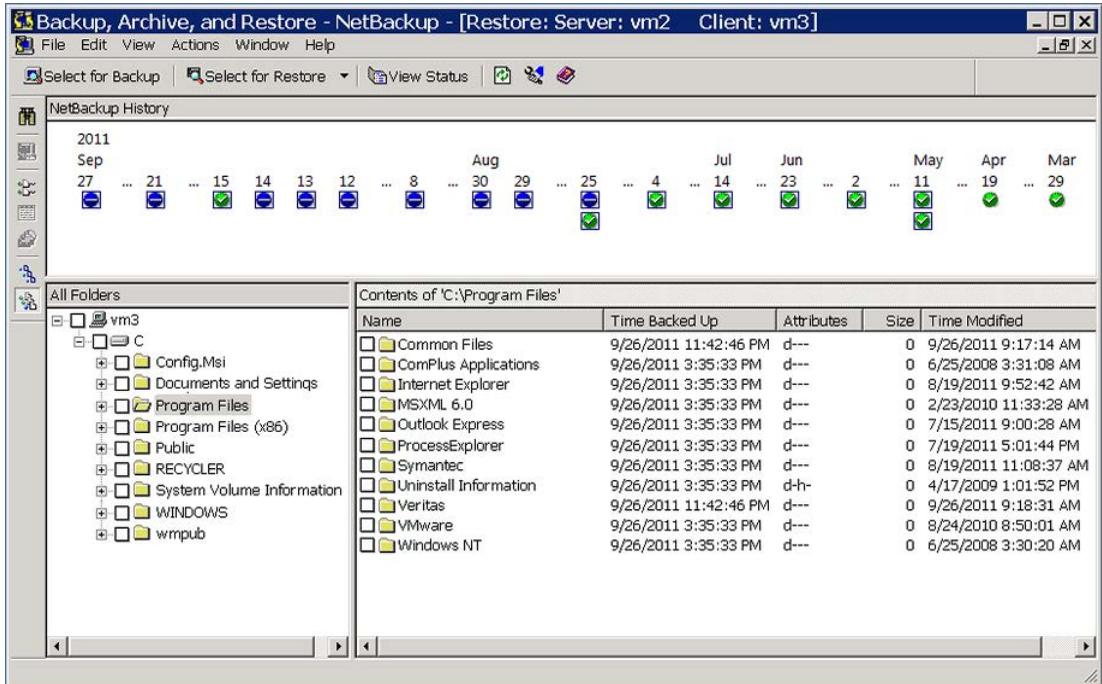
- [ファイル (File)]>[リストアするファイルおよびフォルダの選択 (Select Files and Folders to Restore)]をクリックし、[通常バックアップからリストア (from Normal Backup)]または[アーカイブバックアップからリストア (from Archived Backup)]のいずれかを選択します。

NetBackup によってバックアップイメージが取得され、リストア可能なファイルのリストが作成されるまでに、時間がかかる場合があります。

ウィンドウのタイトルバーには、**NetBackup** が現在どのように操作用に設定されているかに関する次の情報が表示されます。

- サーバー
- ソースクライアント
- 宛先クライアント

次に、リストアウィンドウの例を示します。



- 2 リストアする項目を選択するには、画面で項目の左側にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。

個々の項目の隣にあるチェックマークは、それらの項目が選択されていることを示します。ディレクトリ(フォルダ)の隣のチェックマークは、ディレクトリのすべての項目が選択されていることを示します。ディレクトリの隣のスラッシュマークは、その中の一部の項目のみが選択されていることを示します。

- 3 NetBackupでリストアを実行するために必要なリムーバブルメディア(テープなど)のリストをプレビューするには、次を実行します。

- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]>[メディアのプレビュー (Preview Media)]をクリックします。
- UNIX システムの場合、[プレビュー表示 (Preview)]をクリックします。

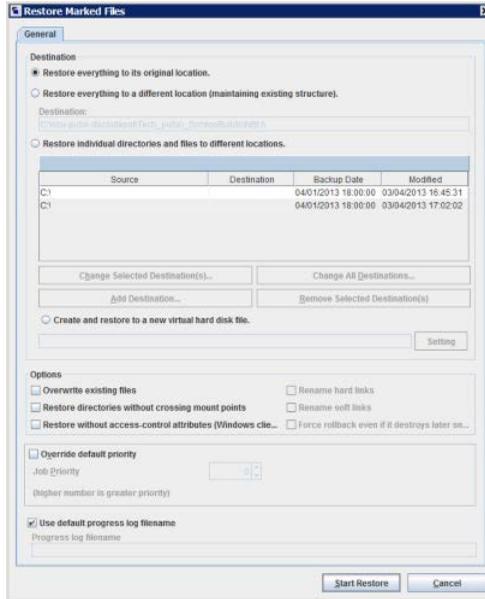
リストアする項目がディスクストレージユニット上に存在するバックアップイメージにある場合は、プレビューにメディアは表示されません。

[OK]をクリックして、このダイアログボックスを閉じます。

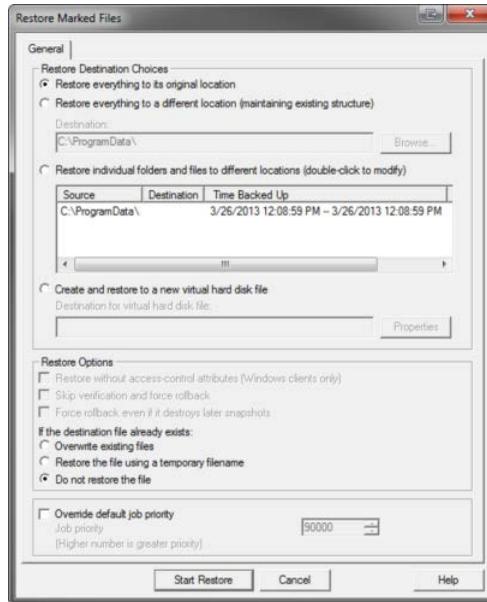
- 4 選択した項目のリストア方法を設定するには、次を実行します。

- UNIX システムの場合、[リストア (Restore)]をクリックします。

次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスの例を示します。



- Windows システムの場合、[処理 (Actions)]>[マークされたファイルのリストアの開始 (Start Restore of Marked Files)]をクリックします。
 次に、[マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)] ダイアログボックスの例を示します。



5 [マークされたファイルのリストア (Restore Marked Files)]ダイアログボックスで、リストアの要件を満たすために次のオプションを選択します。

宛先 次の宛先オプションのいずれかを選択します。

- (Destination)
- 元の位置にすべてをリストア (Restore everything to its original location) (デフォルト)
 - すべてを異なる位置にリストア (既存の構造を維持) (Restore everything to a different location (maintaining existing structure))
 - [個々のディレクトリやファイルを異なる場所にリストア (Restore individual directories and files to different locations)], [個々のフォルダおよびファイルを異なる位置にリストア (Restore individual folders and files to different locations)]
 - [新規仮想ハードディスクファイルを作成してリストア (Create and restore to a new virtual hard disk file)](Windows システムのみ)
 各オプションについて詳しくは、ヘルプを参照してください。

- リストアオプション (Restore Options)
- UNIX システムでは、次のリストアオプションから選択します。
- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
 - クロスマウントポイントなしで、ディレクトリをリストア (Restore directories without crossing mount points)
 - アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
 - ハードリンクの名前の変更 (Rename hard links)
 - ソフトリンクの名前の変更 (Rename soft links)

Windows システムでは、次のリストアオプションから選択します。

- アクセス制御属性なしでリストアする (Windows クライアントのみ) (Restore without access-control attributes (Windows clients only))
- 既存のファイルの上書き (Overwrite existing files)
- 一時ファイル名を使用してファイルをリストア (Restore the file using a temporary filename)
- ファイルをリストアしない (Do not restore the file) (デフォルト)

各オプションについては、ヘルプを参照してください。

ジョブの優先度 (Job Priority) [デフォルトの優先度を上書きする (Override default priority)] チェックボックスをクリックして優先度番号を設定することによってこのリストアの優先度を変更できます。

デフォルトは 90000 です。利用可能な範囲は 0 から 99999 です。数字が大きいほど優先度は高くなります。

この機能については、ヘルプを参照してください。

デフォルトの進捗ログファイル名を使用する (Use default progress log filename)(UNIX のみ)

デフォルトでは、進捗ログメッセージは UNIX クライアントの次の場所に書き込まれます。

`/usr/opens/netbackup/logs/user_ops/loginID/logs`

このバックアップの進捗ログファイルの場所と名前を変更するには、次の操作を実行します。

- このチェックボックスをクリックして、チェックマークを削除します。
- [進捗ログファイル名 (Progress log filename)] フィールドに、新しいパスとファイル名を入力します。

この機能については、ヘルプを参照してください。

6 [リストアの開始 (Start Restore)] をクリックします。

7 リストアの進捗状況を表示するには、次を実行します。

- Windows システムでは、表示される [状態の表示 (View Status)] ダイアログボックスで、[はい (Yes)] をクリックします。
- UNIX システムでは、表示される [タスクの進捗 (Task Progress)] タブで、[はい (Yes)] をクリックします。

リストアは完了するまで数分間かかります。リストア操作を開始した後、バックアップ、アーカイブおよびリストアインターフェースを閉じて、他のタスクを実行できます。操作は、バックグラウンドで継続されます。